

# 平成28年度学校自己評価システムシート (県立杉戸農業高等学校)

|        |   |
|--------|---|
| 目指す学校像 | いのちとみどりを育む学舎で、人間性豊かな心身ともにたくましい産業人を育成する。 |
|--------|---|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 授業をはじめ教育活動を改善して実施することにより、生徒の学力の向上を図る。<br>2 社会人として必要な基本的内容を身に付けさせることにより、評価される人材を育てる。<br>3 効果的な指導を計画的に行うことにより、生徒の進路希望を実現させる。<br>4 地域の要望に応え、地域に貢献する活動を行うことにより、地域から信頼される学校となる。 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |             |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上)  |
|     | B | 概ね達成(6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し(4割以上) |
|     | D | 不十分(4割未満)   |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

|     |          |    |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者    | 4名 |
|     | 生徒       | 4名 |
|     | 事務局(教職員) | 9名 |

| 学 校 自 己 評 価 |  |  |  |   |  |                              |  |
|-------------|--|--|--|---|--|------------------------------|--|
| 年 度 目 標     |  |  | 年 度 評 価 ( 1 月 1 9 日 現 在 )  |   |  |                              |  |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目   | 具体的方策  | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況  | 達成度                          |  |
| 1           | 本校には、幅広い学力層の生徒や特定の分野に高い関心をもって入学してくる生徒がいる。また中学校まで、目立たない存在であった生徒も多数入学している。<br>そこで、生徒を伸ばすためには、生徒個人個人の状況をそれぞれの教科及びHRで把握し、個々の生徒の実態に応じた課題設定を行うことや、生徒に興味関心を持たせた授業を実施する必要がある。このことにより、生徒の自主的な取組につなげたい。<br>また、生徒に「なぜ」と考えさせたり、多くの経験を積ませたり、活躍の場を与えることにより、主体的な取組につなげ、様々な分野の学力の向上を図っていく。 | ○各教科及びHRで個々の生徒の実態把握<br>○生徒の興味関心を高め、主体的に取り組む生徒を育てる授業の実施<br>○生徒の活躍の場の設定    | ①担当授業等の進捗・単元・実習等項目ごとの評価 指標を設定し、その指標に基づき、個々の生徒の 理解度・到達度を記録し、把握する<br>②生徒に興味関心を持たせる授業計画・組み立てを 各教員が再考し実践する<br>③授業公開を3回以上設定し、教員同士の授業研究 を行うとともに、授業力向上の研修会を行う<br>④管理職が授業観察を行い、フィードバックする<br>⑤学習の取組や習得が芳しくない生徒には、日常的に細かな指導を行い、欠点をとらせないようにするとともに、評価に関する研修会を実施する                                  | ①生徒が理解できていること・できていないことなどを把握できたか<br>②授業に興味関心を持つ生徒が増えたか<br>③授業公開を3回以上、研修会を1回以上、教員同士の授業研修が行えたか<br>④管理職が授業観察を行い、成果と課題を授業者に伝えたか<br>⑤評価についての現状が理解でき、欠点者が減少できたか  | ①生徒の理解把握は教員個々で実施している状況。単元毎に細かく分析する必要がある。<br>②76%の生徒が授業内容に関心が高い。昨年比1%増。<br>③授業公開を3回、評価研修1回実施。教員同士の授業研修は各教科・学科で実施。<br>④管理職の授業観察後に成果と課題のアドバイスを実施した。<br>⑤2学期の欠点者が大幅に減少した。  | B<br><br>A<br><br>A          | 生徒個々の学習状況を把握しているが、職員間の情報共有は学年、学科等の組織単位までである。今後全体での共有を図る必要がある。<br>生徒の活躍の場は設定できた。これを活用し、生徒個々の力を伸ばす指導を充実させることが求められている。<br>欠点保有者は減ったが、更に良い状況を目指して指導を工夫していくことが重要である。  |
| 2           | 卒業後、社会人として社会生活を送る上で必要な、挨拶、服装、言葉遣い、時間を守る、清掃の取組、率先した行動、交通ルールの遵守等が十分身につけていない生徒、TPOによる使い分けができない生徒が一部いる。また、携帯電話等の使用マナーに問題がある生徒が多くみられる。<br>これらの生徒は、これまでに十分身に付けてなかった者もいるだろうが、学ぶ機会がなかった者もいると考えられ、これらをしっかり知らせ学ばせていく。  | ○遅刻者・欠席者の減少<br>○交通事故の減少<br>○携帯電話等の使用マナーの遵守                               | ①授業や行事等を定刻で開始し、チャイム着席を励行する<br>②欠席・遅刻の際の連絡をさせる指導を徹底する<br>③個々の生徒の状況把握と、面談による改善指導を行う<br>④交通ルールを学習する機会を設定する<br>⑤定期的な自転車点検を実施する<br>⑥定期的な自転車の一時停止違反、傘差し運転、イヤホンでの運転等防止のための指導を実施する<br>⑦携帯電話等の使用マナーと危険性を学習する機会を設定する<br>⑧TPOによる使用規制を実施する   | ①遅刻者が減少したか<br>②欠席・遅刻する者(家族)が学校に連絡したか<br>③欠席・遅刻の多い生徒の改善指導を実施したか<br>④交通ルールを学習する機会が持てたか<br>⑤自転車点検を3回以上実施したか<br>⑥自転車のルール違反や危険運転等が減少したか<br>⑦学習する機会が持てたか<br>⑧TPOによる使用規制規準を作成できたか                      | ①遅刻者は前年度比11%減少した。<br>②学校への連絡を推進した結果、無断の欠席・遅刻者はほとんどいない。<br>③担任、学年で指導。他スクールカウンセラーを活用し指導を実施した。<br>④9/30に交通安全指導を実施。<br>⑤自転車点検3回実施ができた。<br>⑥自転車運転のルール違反、危険行為は減少。事故は減少せず。<br>⑦携帯電話等について外部の専門家により実施できた。<br>⑧使用規制は現在検討中である。                | A<br><br>B<br><br>B          | 生徒会等が主体的に取り組んだ挨拶運動の実施等、大きな成果が上がっている。しかしまだ遅刻等も少なからずあり、今後、継続・工夫して指導をしていく必要がある。<br>自転車の指導もしっかり実施できたが、事故が必ずしも減っていない。更に啓発活動を実施し、事故ゼロにつなげたい。   |
| 3           | 生徒は進路について、2年後半になってから具体を考え出す生徒が多い。最終的には、教員の意識付け、指導で進路決定率が高いが、入学当初に希望する進路の実現が必ずしも順調とはいかない状況がある。また、進学者の中退や就職後の早目の離職もある。<br>そこで、生徒自身に明確な進路目標を早めに持たせ、入学時から着実に活動させることが大切であり、そのために進路指導の仕組みや進め方などを早めに学ばせる必要がある。保護者の理解・協力を得るためにも、保護者にも同様なことが言える。                                    | ○農業、関連産業の担い手の増加<br>○100%進路決定<br>○早めの希望進路の検討と希望の実現<br>○進学者の中退と就職者の早期離職の防止 | ①1年生全員の農業・関連産業へのインターンシップの実施<br>②生徒に意識付けを行い、受験先の情報収集と合格のための準備を行わせる<br>③学校全体で3年生の面接指導、論文指導等を行い、合格に向けた適切なアドバイスをを行う<br>④入学後早い段階から、進路指導の仕組みや進め方を生徒・保護者に説明し、理解を進める<br>⑤早めに希望進路を検討させ、実現のための情報収集を行わせるとともに、希望進路実現のため、計画的な準備・活動を行わせる<br>⑥進路先決定者に心構え等のガイダンスを実施する<br>⑦進学者・就職後、状況を確認し、必要に応じてアドバイスする | ①1年生全員が参加し、農業・関連産業への興味関心が高まったか<br>②生徒の進路が100%決定したか<br>③組織的な進路指導が行えたか<br>④1年及びその保護者に対して、本校の進路指導の仕組みが伝えられたか<br>⑤1年又は2年前半までに、求人票を確認させたり、オープンキャンパスに参加させたか<br>⑥進路先決定者にガイダンスが実施できたか<br>⑦卒業後の状況を確認できたか | ①インターンシップを9月に実施。満足度が高く興味関心も高まった。<br>②進路は99.5%決定。1名が未定。指導を実施中。<br>③計画的、組織的に進路指導ができた。<br>④夏の保護者説明会時に進路及び進路指導について説明できた。<br>⑤進路講演会の実施等により意識の向上が見られたが、求人票の確認者、オープンキャンパス参加者の増加は至っていない。<br>⑥進路決定者にビジネスマナーのガイダンスが実施できた。<br>⑦確認は校務多忙で実施できず。 | A<br><br>A<br><br>B<br><br>C | 生徒や保護者の進路意識は確実に向上している。更にきめ細かな指導を実施し、生徒が早い時期から主体的に進路活動ができるよう校内体制を整備することが求められる。<br>また、早期離職や大学等の退学防止を見据えて、卒業後のケアも念頭に、卒業生の実態を把握する。それらのデータを蓄積し、現生徒の指導に役立てることも必要である。例えば進学者・就職先の卒業生と連携を図り、先輩訪問の形でオープンキャンパスに参加させるなど、学校の持つ資源を活かす。 |
| 4           | 開校400年を迎えた杉戸町や、生徒の出身中学校、近隣公共施設等からの依頼、例えば新商品の開発、出前授業や見学、農産物販売などの実施が、年々増えている。授業等との兼ね合いもあり、要望にどこまで応えられるか課題もあるが、できるだけ地域の要望・期待に応え、本校を一層理解していただくことを進めたい。<br>また、地域に学校の状況を知ってもらうよう、情報を発信していく。  | ○地域の要望への組織的対応<br>○学校情報の積極的な提供<br>○目的意識の高い志願者の確保                          | ①要望内容により校内の窓口を決め、要望に十分応えられるよう調整を図る<br>②対象に応じた効果的な資料作成を行い、実施する<br>③HPに本校の基本情報を掲載し、それを定期的に 見直し、新しい情報を提供・発信する<br>④学校を紹介する資料を作成し、地域に配布するなどを行い、学校の状況を積極的に発信する<br>⑤中学校の出前授業、高校見学、説明会、体験入学 等の機会に、積極的に本校の良さをPRする<br>⑥中学校への積極的な働きかけを行う  | ①依頼先からの要望に応えられたか<br>②効果的に実施できたか<br>③HPに本校の最新の基本情報を掲載し話題をその都度発信できたか<br>④学校紹介資料を作成・配布できたか<br>⑤本校の中学生向け行事に参加した中学生が志願してきたか<br>⑥本校への志願者が増えたか   | ①依頼先の保育園の行事協力、門松の設置等に対応できた。<br>②要望の「たまふわ」等の資料を作成した。<br>③HPに基本情報は概ね掲載できた。情報発信の偏りがあった。<br>④学校案内の他進路状況等の資料を中学校等に配付した。<br>⑤出前授業14校、高校見学・説明会42校実施。PRでできた。<br>⑥志願者は昨年比に比べ1割増加。   | A<br><br>B<br><br>A          | 中学生への効果的な広報活動ができたが、きめ細かな対応が今後求められてくる。学校の魅力を効果的に伝える必要がある。<br>中学生に生徒が説明したのは大変よかった。中学生が生徒目線で身近に感じ、より親しみを持ったのではないかと。   |

## 学 校 関 係 者 評 価

実施日 平成29年1月20日

学校関係者からの意見・要望・評価等

生徒が熱心に授業に取り組んでいる。良い学習環境で学校が落ち着いている。大変よい学校になっていると感じる。  
農業高校の卒業生は、農業のことは何でも知っている世の中の人は思っている。農業の基礎的な知識を全生徒にもってほしい。専門の授業は実際に世の中でやっていることを取り入れていて大変よい。また、どの授業も具体的でわかりやすい。今後も生徒が意欲的に取り組む授業の展開を望む。

一部の生徒の遅刻や交通事故が多いが、全体として生徒は大変落ち着いているとの印象を受けた。実際評価の数字を見ても、それを裏付けるものになっている。継続した取り組みを期待する。  
生徒会等が主体的に取り組んだ挨拶運動の実施等、大きな成果が上がっている。しかしまだ遅刻等も少なからずあり、今後、継続・工夫して指導をしていく必要がある。  
自転車の指導もしっかり実施できたが、事故が必ずしも減っていない。更に啓発活動を実施し、事故ゼロにつなげたい。

求人数が大変多いのに驚いた。景気の関係もあるが生徒は恵まれている。このチャンスを活かして、企業等との関係も大切にすることが大事である。  
職業人育成の観点から、企業等が望む人材を研究し、世の中から求められる人材育成に取り組むのも良いのではないかと。インターンシップを更に充実させ活用し、役立つ人材を育てて欲しい。

学校のよいところをもっと地域に知ってもらう必要がある。地域への広報活動を工夫し、継続的に取り組んで欲しい。  
中学生に生徒が説明したのは大変よかった。中学生が生徒目線で身近に感じ、より親しみを持ったのではないかと。